

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
令和5年度通常総会議案書

期 日 令和5年5月28日(日)14時00分開会
会 場 新潟県公社ビル3F 会議室 (Web・Zoomによる配信)
※感染防止の観点から一般会員の方はWebにてご参加ください。

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 資格審査報告
4. 議長選出
5. 議長挨拶
6. 総会役員選出
 - 1) 書記任命
 - 2) 議事録署名人任命
7. 表彰
8. 議事
 - 1) 第1号議案 令和4年度事業報告について
 - 2) 第2号議案 令和4年度収支決算書について
 - 3) 第3号議案 令和4年度監査報告について
 - 4) 第4号議案 支部提出議案について
 - 5) 第5号議案 日臨技定時総会提出議案について
 - 6) 第6号議案 次年度役員選出について
 - 7) その他
9. 令和5年度事業計画および収支予算について(報告)
10. 総会役員解任
11. 議長挨拶
12. 閉会の辞

令和4年度事業報告

会長

渡邊 博昭

令和4年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどの会議や研修会はリモートで行ったが、令和4年12月18日（日）の会期で朱鷺メッセにおきまして第95回新潟県臨床検査学会をリアル開催し、大過なく盛会のうちに終了できた。これもひとえに講師、座長の皆様、関係各位のお力添えのおかげと実務委員一同、感謝申し上げます。

令和4年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

令和4年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は例年度通りの事業を行った。

学術部

- ① 精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ② 検査研究部門活動は、日臨技助成金に対して20研修会の申請を行った。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

令和4年5月29日（日）新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、令和3年度通常総会は Zoom を用いた WEB 形式で実施された。令和3年度事業報告、同決算報告、監査報告に関して、議決書ならびに WEB 出席者において賛成多数で承認された。また、令和4年度事業計画（案）、収支予算（案）の確認もされた。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

令和4年度は役員任期の後期にあたったが、前年度同様に学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状の中、日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担っていた阿部事務員が退職された。事務局作業は細分化され、各担当を中心に JAMTIS 運用による会員情報登録および変更作業、諸会議の準備、会計を処理し、組織運営を果たしている。

3. 諸会議の開催

- 1) 理事会 第1回 令和4年4月10日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第2回 令和4年5月14日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第3回 令和4年7月16日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第4回 令和4年9月17日（Zoom を用いたオンライン会議）
- 第5回 令和4年12月4日（現地開催 + Zoom を用いたオンライン会議）
- 第6回 令和5年1月28日（Zoom を用いたオンライン会議）

2) 常任理事会

定例常任理事会は、令和4年度は2回の開催となった。

3) 三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行ない、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第323号から第326号の編集業務のため、メール等を利用して実施した。

(2) ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

(3) 検査研究部門委員会

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため1回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため5回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、Zoom による WEB 審議を1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は69名。

本会の正会員総数は1,378名。(令和5年3月現在)

技師連盟入会者数は44名136口。

社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

3) 会員施設との連携強化

会員施設との連携を強化するため、施設運営管理者協議会を設置し、令和4年8月21日に令和4年度施設運営管理者協議会を開催した。現在(令和5年3月)の登録施設数は55施設である。今回の協議会では、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の新潟県での開催状況ならびに臨床検査技師を取り巻く社会情勢、タスク・シフト/シェアをうけて臨床検査技師の今後の展望についての情報を共有した。

5. 地域保健医療活動および公益事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、多くの公益活動は中止、不参加となったが、一時感染拡大が終息期であった令和4年11月20日に、全国「検査と健康展」2022 in NIIGATAを開催した。毎年行っている体験型のイベントは行わず、十分な感染対策を講じながら、臨床検査技師の仕事内容についてのパネル展を実施した。

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関係

災害支援活動に関するマニュアルを整備中である。

8. 表彰関係(敬称略)

1) 第40回篠川至賞

特別功労部門 吉原正弘(立川総合病院)

学術賞部門 樋口元弥(新潟県立燕労災病院)

2) 令和4年度功労者表彰

(1) 永年会員功労者表彰 該当者27名

(2) 特別功労者表彰 該当者なし

3) 名誉会員 該当者なし

4) 令和3年度生涯教育履修表彰

奨励賞 畔上公子(新潟県立がんセンター新潟病院) 320点

高橋政江(新潟県立妙高病院) 290点

柳沢悦子(新潟県立吉田病院) 258点

新人賞 渡辺翔(南魚沼市民病院) 190点

9. 日臨技からの政策渉外関連調査

日臨技より「政策渉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設の選定」が調査の精度を上げるために、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、JA新潟厚生連豊栄病院、湯沢町保険医療センターの4施設が登録された。

令和4年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に活動をした。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、対面での研修会や実技研修会が開催され、コロナ以前の活動に戻り始めている。Web研修会での参加者数が伸びたが、参加費を徴収しない研修会開催方法は受益者負担の観点から再考が必要と考える。研修会の開催に際しては日臨技の生涯教育推進研修会助成金の申請を行った。第95回新潟県臨床検査学会は94回に引き続き、現地で開催する事ができた。

精度管理事業は新潟県より委託を受けた事業であり、例年通り、日臨技のシステムを利用して行う事ができた。精度管理報告会は令和3年度同様にWebでの開催となった。

1. 学会

桑原喜久男

令和4年12月18日(日)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、田中実行委員長のもと、第95回新潟県臨床検査学会を開催した。第94回に続き対面での開催として、開催中は3密を避け、感染管理を行い、運営は大過なく行う事が出来た。参加者数231名(一般会員:148名、賛助会員:28名、新潟県会員:1名・学生:52名、非会員:1名)の参加を頂き、一般演題26演題、教育講演4講演、特別講演1講演を開催した。また、94回に引き続き学会内で各種表彰を行った。ランチョンセミナー、機器展示は見送った。

2. 検査研究部門

中村 岳史

令和4年度検査研究部門は、9部門6分野(生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門)の9部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の3分野、臨床検査総合部門は、管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野の3分野)で組織構成され、部門構成員は最大各部門6名、各分野4名、活動費は各部門12万円、各分野8万円で運営された。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計14回であった(昨年度13回、一昨年度8回)。各部門分野別では、生物化学分析部門0回、臨床一般部門1回、臨床血液部門0回、臨床微生物部門2回、輸血細胞治療部門1回、病理細胞部門1回、染色体・遺伝子部門1回、臨床生理部門(部門として1回、神経生理分野1回、循環生理・呼吸生理分野1回、超音波分野2回)、臨床検査総合部門(管理運営分野1回、公衆衛生・生殖医療分野1回、救急検査分野1回)であった。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、Zoomを用いたオンライン研修会での開催が主体であったが、現地開催や実技研修といった開催形式も企画された。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性の高い内容のものまで会員のニーズを鑑み、企画運営されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。また、今年度は臨床生理部門において実技研修会が開催された。実技研修は会員からのニーズが高く、技術面の向上に寄与する重要な研修会の一つであり、引き続き実技研修の開催について検討していくことが必要である。

次年度は、オンライン研修会に並行し新型コロナウイルス感染対策を十分に行ったうえで、会員の声を反映した現地開催や実技研修会の開催など、知識や技術の向上のため会員にとって有益な学術活動を運営していく。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	研修会開催なし				
臨床一般	令和5年 1月14日(土)	専門20	54名	0名	【令和4年度臨床一般部門研修会(Web開催)】 1.「検査室で実施できる寄生虫検査」 北陸大学 医療保健学部 松村 隆弘 2.「尿沈渣検査「尿細管上皮細胞」を考えるー多様な形態で出現する尿細管上皮細胞の鑑別方法と意義ー」 平内町国民健康保険 平内中央病院 坂牛 省二 ZoomによるWeb開催
臨床血液	研修会開催なし				
臨床微生物	令和4年 10月29日(土)	専門20	33名	0名	【令和4年度新臨床微生物部門研修会】 1.「新型コロナウイルスを機に導入された遺伝子検査機器の活用について～全自動PCR検査装置を迅速な感染対策に活用する～」 ベックマン・コールター株式会社 マイクロバイオロジー統括部 営業推進部 壺浦 照也 2.「臨床微生物検査の最新トピックス2022」 東京医科大学 微生物学分野 大楠 清文 3.「学会発表&論文執筆のポイント」 東京医科大学 微生物学分野 大楠 清文 現地開催
	令和5年 3月5日(日)	専門20	34名	0名	【令和4年度第2回新臨床微生物部門研修会】 1.「全自動血液培養装置 VIRTUOによるフルオートメーション化とデータマネジメント」 ビオメリュー・ジャパン株式会社 臨床学術部 北浦 芳之 2.「抗酸菌検査の基礎」 国立病院機構新潟中央病院 臨床検査科 渡辺 靖 3.「図解 グラム染色 基本から実践まで」 東邦大学医療センター大森病院 臨床検査部 佐々木雅一 現地開催
輸血・細胞治療	令和4年 10月8日(土)	専門20 (入会申請および賛助会員含む)	92名	0名	【令和4年度輸血細胞治療部門研修会(Web開催)】 1.「輸血検査の基礎ー初心者・初級者の方々にー」 バイオラッド株式会社 2.「輸血のための検査マニュアルについてのトラブルシューティング」 一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会 東邦大学医療センター大森病院 輸血部 日高 陽子 ZoomによるWeb開催
病理細胞	令和4年 11月20日(日)	専門20 (賛助会員含む)	42名	4名	【令和4年度新潟県臨床検査技師会 病理細胞部門研修会(Web開催)】 1.「各施設における迅速組織診・細胞診の紹介」 長岡中央総合病院 病理部 大橋 珠紀 魚沼基幹病院 臨床検査科 病理 大野 仁子 新潟大学医歯学総合病院 病理部 川口裕貴恵 2.「迅速組織と迅速細胞診の技術」 順天堂大学医学部人体病理学講座 青木 裕志 3.「臨床医から見た迅速の意義」 新潟大学大学院医歯学総合研究科 家族性・遺伝性腫瘍学講座 西野 幸治 4.「病理医から見た迅速の意義」 四国がんセンター 病理科 がん予防疫学研究部 寺本 典弘 ZoomによるWeb開催
染色体・遺伝子	令和4年 11月5日(土)	専門20	32名	0名	【令和4年度染色体・遺伝子部門研修会(Web開催)】 1.「感染症の迅速検査法のご紹介」 東洋紡株式会社 診断システム事業部 曾家 義博 2.「リアルタイムPCRによる遺伝子解析ー基礎原理と解析注意点、コンタミネーションを回避する分注のコツ～」 サーモフィッシュャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズジャパン株式会社 テクニカルサポート 白神 博 ZoomによるWeb開催
臨床生理	令和4年 7月10日(日)	専門20 (入会申請中含む)	149名	0名	【臨床生理部門研修会 生理検査基礎セミナー2022～心電図・呼吸機能編～】 1.「心電図検査の正しい進め方～基礎を習得しよう！～」 社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 臨床検査科 高野小百合 2.「喘息・COPDの呼吸機能検査結果の解釈」 北海道大学病院 生理機能検査室 山本 雅史 ZoomによるWeb開催
	神経生理分野 令和5年 2月18日(土)	専門20	84名	7名 (学生含む)	【臨床生理部門神経生理分野研修会 神経生理検査セミナー2023】 1.「神経伝導検査について学ぼう～検査に役立つ基礎知識～」 太田西ノ内病院 生理検査科 相原理恵子 2.「検査の基本とコツ～ABRとENoGについて～」 手稲溪仁会病院 臨床検査部 小川 優司 ZoomによるWeb開催
	循環・呼吸生理 分野 令和4年 12月3日(土)	専門20	33名	0名	【臨床生理部門循環呼吸生理分野研修会 心電図・呼吸機能検査セミナー2022】 1.「心臓電気生理検査 入門編」 新潟大学 医学部保健学科 齋藤 修 2.「呼吸機能ガイドライン変更内容～測定時のポイントを交えて」 株式会社フクダ産業 肺機能事業部 上野 耕平 3.「ペースメーカー心電図判読と植込みデバイス最新事情」 三菱京都病院 診療技術部 山田 宣幸 ZoomによるWeb開催
	超音波分野 令和4年 9月17日(土)	専門20	88名	0名	【臨床生理部門研修会 超音波初級者セミナー2022～夏の全身動脈祭り～】 1.「これから始める頸動脈エコー」 埼玉医科大学国際医療センター 中央検査部 山本 哲也 2.「やってみよう！腎動脈・腹部血管エコー描出のポイントと評価法ー」 新潟大学医歯学総合病院 検査部 小林 清子 3.「やればみんなできる！ー下肢動脈エコーの評価と観察のコツー」 東邦大学医療センター大森病院 臨床生理機能検査部 八鉈 恒芳 ZoomによるWeb開催

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
臨床生理	超音波分野 令和4年 10月15日(土)	専門20	34名	0名	【臨床生理部門超音波分野研修会 超音波実技セミナー2022】 1. 「心臓超音波：基本断面の走査法、装置の設定、心機能計測法など」 立川総合病院 江口 香澄 JA新潟厚生連新潟医療センター 堤 恭子 2. 「腹部超音波：初級者を対象とした見落としのない臓器の描出方法など」 労働衛生医学協会岩室成人病検診センター 若林 佳美 長岡赤十字病院 小幡ちはる 3. 「頸動脈超音波：「超音波による頸動脈病変の標準的評価法2017」に沿った計測法など」 JA新潟厚生連長岡中央総合病院 大矢 佳奈 現地開催
臨床検査総合	管理運営分野 令和5年 1月14日(土)	専門20	34名 (賛助会員含む)	0名	【令和4年度臨床検査総合部門管理運営分野研修会】 1. 「臨地実習指導者講習会～制度の立て付けと実際の話～」 済生会三条病院 桑原喜久男 2. 「精度管理の基礎とISOに基づいた危機管理手順について」 シスメックス株式会社 北関東支店 学術サポート課 中島 正雄 ZoomによるWeb開催
	救急検査分野 令和4年 7月16日(土)	専門20	147名 (賛助会員含む)	3名 (学生含む)	【令和4年度新潟県臨床検査技師会臨床検査総合部門救急検査分野研修会 救急検査セミナー2022】 1. 「検体検査のピットホール～そのデータ、本当に正しい??～」 新潟県立妙高病院 高橋 政江 2. 「こんなときどうする?日直時の輪血」 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 柴田真由美 3. 「苦手克服!血液ガス分析 Part.2」 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 濱田 宏輝 ZoomによるWeb開催
	公衆衛生・生殖 分野 令和5年 1月14日(土)	専門20	18名	8名	【令和4年度臨床検査総合部門(公衆衛生・生殖医療分野)研修会】 1. 「リアルタイムPCRセミナー 基礎原理とコンタミネーション回避を中心としたトラブルシューティング」 サーモフィッシュャーサイエンティフィック ライフサイエンスソリューションズ ライフテクノロジーズジャパン株式会社 今泉隆次郎 2. 「DNA媒介性細菌感染症について」 国立感染症研究所 細菌第一部 川端 寛樹 3. 「ボレリア感染症(ライム病、回帰熱)について」 国立感染症研究所 細菌第一部 佐藤 梢 現地開催

3. 精度管理事業

田端 篤

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である令和4年度(第43回)新潟県臨床検査精度管理調査を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。本事業を担当する精度管理委員会はコロナ禍であることから、Web会議など中心に、全体会議を計5回開催しメールなどを用いて実施計画及び配送準備、データ集計、解析を実施した。微生物検査は技師会が担当する一般菌1菌種の薬剤感受性試験と、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種の同定を合わせて実施した。調査対象として施設数は、全体で179施設、今年度の参加施設は165施設(92.1%)であった。

精度管理調査事業の内容(測定項目)は以下のとおりである。

1) 臨床化学検査 ※生化学試料：冷凍試料、HbA1c 試料：冷蔵試料

評価対象項目(21項目)

グルコース(Glu)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)、クロール(Cl)、カルシウム(Ca)、尿酸(UA)、尿素窒素(UN)、クレアチニン(Cre)、総コレステロール(TC)、中性脂肪(TG)、HDL-コレステロール(HDLC)、LDL-コレステロール(LDLC)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)、アルカリフォスファターゼ(ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)、アミラーゼ(AMY)、クレアチンキナーゼ(CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ(GGT)、コリンエステラーゼ(ChE)、ヘモグロビンA1c(HbA1c)

集計報告のみの項目(7項目)

総ビリルビン(TB)、無機リン(IP)、鉄(Fe)、マグネシウム(Mg)、総蛋白(TP)、アルブミン(Alb)、C反応性蛋白(CRP)

2) 血液検査 ※血液試料：冷蔵試料

CBC6項目(ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積)

3) 微生物検査 (同定)

試料A、試料Bにはそれぞれ1種類の細菌が含まれているので発育した菌について結果を報告。

4) 微生物検査 (薬剤感受性試験)

試料C (*Pseudomonas aeruginosa* NCTC 13921) に含まれる病原細菌のイミペネム (以下「IPM」とする。)、アミカシン (以下「AMK」とする。)、レボフロキサシン (以下「LVFX」とする。) の3薬剤について薬剤感受性試験を実施した。※薬剤感受性の判定は Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) M100-S26の基準を用いた。

5) 一般検査フォトサーベイ

設問1~12を評価対象設問とし、参考調査として尿沈渣成分1問、髄液細胞数算定1問、寄生虫検査4問を実施した。

今年度の調査より本報告書への調査結果報告の掲載について2点ほど変更を行った。まずは、「測定方法別バイアスの許容限界を満たさない施設」、「項目別・方法別統計表」の掲載を取りやめて、その代案として、初めての試みとして (一社) 日本臨床衛生検査技師会の精度管理用システム (JAMTQC) にアップロードし、各施設にてダウンロード可能となるように変更した。また、併せて、測定試薬ごとに集計表もアップロードした。次に、実施全項目に対して調査結果解析を行い、その内容を掲載していたが、評価対象項目のみ結果解析を行い、その内容を掲載した。この理由としては、各項目において報告値が収束しており、解析結果が近年同様な内容となっていた為である。評価対象以外については集計統計表のみとした。

新潟県臨床検査精度管理調査における目標値の設定は従来から日本臨床化学会 (JSCC) の勧告法に準じた方法、および勧告法の伝達された認証標準血清を用いて実施してきた。JSCC 勧告法は設定されて以来、多くの精度管理調査の目標値設定方法として、また市販試薬の対照測定法として用いられている。特定健診においても前述の標準物質を用いて標準化が行われていることが前提となっている。昨年度と同様に酵素項目、濃度項目の目標値設定については、基幹施設および ISO 取得施設に別途測定依頼したデータを用い設定した。日本臨床化学会より、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD) の測定方法を JSCC 標準化対応法より IFCC 標準化対応法に令和2年度中に変更するように勧告されていた。今年度の調査では、ALP、LDともに112施設 (97%) が IFCC 標準化対応法で回答があり、概ね変更が完了していた。ただ、3施設 (3%) が JSCC 法での回答となっており、うち1施設が誤記入と思われる。昨年度中の変更が勧告されていることから、JSCC 法回答施設については評価対象外とした。HDL コレステロール、LDL コレステロールについては、今年度も測定方法 (測定試薬) により値が異なるため、できるだけ多くの測定方法 (測定試薬) に目標値を設定したいと考えメーカー報告値を目標値とした。ただ、LDL コレステロールにおいて、デンカ試薬にて測定機種により測定値に差がみられたため目標値を別設定とした。また、LDL コレステロールの試料12 (市販管理血清) において、昨年度と同様に積水メーカー報告値と施設報告平均値に差がみられたため、施設報告値平均値を目標値として設定した。クロール (Cl) についても電極の違いにより測定値に差がみられたため別設定とした。HbA1c は本年度も日本赤十字社全血検体を用いたが、測定方法 (測定試薬) により反応性が異なるためメーカー報告値を用いて測定方法毎に目標値を設定した。ドライケミストリー法はマトリックスの影響を受けやすいことから、メーカー報告値を目標値とした。

本年度も試料11にはヒトプール血清を使用しており、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、クレアチニン (Cre) において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値 $\pm 10\%$ とした。乳酸デヒドロゲナーゼ (LD) も暫定的に $\pm 5\%$ とした。また、ナトリウム (Na) 及びクロール (Cl) は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価B以下の基準を変更した。カリウム (K) はBAが1.9%であるが、

規格の運用において、「測定値が小さく、目標値×BA (%) の値、あるいは目標値×5 % (許容誤差限界上限) の値が、日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の2倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値 $\pm 0.2\text{mEq/L}$ とした。

なお、尿素窒素の ReCCS の標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア除去 (回避) 法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法はナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl) はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが、それ以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため、評価 B を1.5倍 (目標値 $\pm 7.5\%$) に広げた。また、集計に用いた精度管理用システム (JAMTQC) は6施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で6施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させさせることが不可能であることから「対象外」の表記になる。ただし、参加施設数がほとんどの項目において、例年6施設未満のドライケミストリー法について、初めての試みとして評価を行うこととした。その理由としては、まず、全て項目において目標値が機種メーカーごとにメーカー報告値で設定されていること。つぎに、メーカー報告値を目標値にすることで、許容を満たさない施設の是正を促したいと考えたからである。ただ、今年度は試行的に行うものとする。ご不便をおかけすることをお詫びするとともに、目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

血球計数検査 (CBC) については項目別統計において機種間差を含んだ上で各項目の CV は評価基準内に収まっており、全体的に良好な収束を示した。昨年度より評価基準を変更した血小板数においては、評価 B の施設数が前回の10施設から7施設へ減少した結果となった。機種別統計では概ね各機種の目標値に近似した報告値となり、良好な収束がみられた。ただ、今年度も白血球数において、入力桁数間違いと思われる1施設が評価 D であった。報告に際しては、十分に注意して頂きたい。

微生物検査 (同定) では、試料 A は「*Vibrio mimicus*」を正解、「*Vibrio sp.*」を許容正解とし、正解は64施設 (97%) となった。試料 B は「*Listeria monocytogenes*」を正解、「*Listeria sp.*」を許容正解とし、正解は57施設 (98%) となった。例年、同定された菌種と性状確認試験の結果において整合性の取れない例がみられる。得られた結果については、結果報告前に成書等により性状を確認し、成績書作成時にはダブルチェックする等、十分な確認をお願いする。

微生物検査 (薬剤感受性試験) では、メタロ- β -ラクタマーゼの一種である SPM-1 を産生するカルバペナム耐性の *Pseudomonas aeruginosa* NCTC 13921 を用いて、IPM、AMK、LVFX の薬剤感受性試験の調査を行った。結果はいずれも良好な成績であった。しかし IPM において、MIC 値が >2.00 かつカテゴリー判定 R との回答があった。本来この測定レンジでは、I あるいは R を正確に判定することができない。該当施設においては、測定レンジの見直しをお願いしたい。また、カルバペナーゼあるいはメタロ- β -ラクタマーゼ確認試験を実施した数施設において、SMA 阻害試験、EDTA 阻害試験、mCIM に対して「陰性」の回答があった。出題菌株ではこれらの試験は陽性となる。該当施設においては、確認試験方法についてご確認いただきたい。出題菌株は、IPM、AMK および LVFX すべてに耐性を示すため、多剤耐性緑膿菌 (MDRP: multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*) と判定される。今回、フリーコメントに「MDRP」と回答した施設は18施設 (36.7%) であった。MDRP は5類感染症 (定点) に指定されており、さらに院内感染対策上重要な耐性菌であるため、報告できる体制が必要である。

一般検査 (フォトサーベイ) は、多くの設間で正解率が高く、特に例年正解率の低い尿細管上皮細胞の正解率も高かった。各施設における日頃の尿沈渣成分鑑別の教育、知識の研鑽の表れである。一方で、尿中赤血球形態においては、引き続き低正解率の設間があった。尿中赤血球形態の鑑別は、尿路における出血部位の推定が可能で臨牀的に有用である。今一度、尿沈渣検査法や技術教本、血尿診断ガイドライン等

を確認し、鑑別能力の向上、報告の推進をしていただきたい。

寄生虫検査について、検査件数は多くなく、外部委託する施設が多くなっているが、毎年少なくとも数
の寄生虫感染症は報告されている。検査法や保存法を含め、いざというときに最低限の検査が実施出来る
よう、機材の準備、知識の維持をしておくことが重要である。

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行っていただいた。依然、新型
コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、主に web 研修会が開催されたが、特に大きなトラブルはな
かった。web 研修会の生涯教育登録は開催後に事前登録と web のログを確認する作業が発生するので、実施
にあたって関係各位に感謝したい。尚、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、20
研修会が対象となり、計941,000円を受け取ることができた。

広報部

副会長 田端 篤

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の
提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。ホームページは即時に会員にお知らせできる事から、有益な情報
をできるだけ早く掲載することに努めた。また、昨年に引き続き文書発送についてシステムを用いて、メール
にて各施設に理事会終了後に発行する新臨技ニュース・各種案内や文書を発信し、即時性を重視し情報発信を
行ってきた。会誌に関しても、研修会、学会の開催が難しい中、Web 研修会の内容や認定技師精度紹介、施
設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため Web を用いた研修会等が多く、参加報告
執筆依頼が難しいために件数は減ってしまったが参加した会員の協力を得て、講義内容をお伝えできる頁とし
た。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供し
た。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

日々の出来事や趣味の話など投稿できるペンリレー、職場での活躍ぶりや日々の頑張りが伝わる奮闘記、そ
して新しく会員になられた方々の紹介を掲載することで会員同士の繋がりをつくる頁とした。

〔公益活動参加報告〕コロナ禍にてほとんどの公益活動は中止となったが、糖尿病を知る集いや全国検査と
健康展など以前とは違う形式で参加スタッフ数を減らして開催している公益活動について掲載することができ
た。

〔施設紹介〕様々な施設の紹介をすることで、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕初めて学会発表をした会員に感想やプロセスを含めた報告書を執筆していただき、これか
ら発表を考えている方の参考にしていただけるよう努めた。

年 4 回 季刊発行 (323号から326号まで)

〈令和 4 年度会誌掲載内容〉

323号 令和 4 年 4 月 1 日

〔講義〕

ホルター心電図検査 ～その歴史から二次処理などの未来に向けて～

須藤 二郎

血液培養の Q & A 坂本 晃一
〔篠川 至賞とは〕 篠川 至賞について 畔上 公子
〔お知らせ〕 第95回新潟県臨床検査学会案内（予告）
〔施設紹介〕 医療法人崇徳会 長岡西病院 関 季代美
〔認定技師制度紹介〕 認定心電検査技師について 桐生あずさ
〔ペンリレー〕 瀬沼 祥輝
〔検査技師として～私の奮闘記～〕 織原 大貴、大熊 京香、村田 直之、長谷川直緒
〔会報〕

令和4年度通常総会議案書
2021年度（令和3年度）現地開催 + Zoom による第6回理事会議事録
2021年度（令和3年度）Zoom による第5回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
〔行事予定〕
〔編集後記〕

324号 令和4年7月1日

〔講義〕
細胞形態の認識とロジカルな形態学 菅原 新吾
最近の長時間波形記録装置の記録と編集 吉田 史
〔受賞者のことば〕
篠川至賞を受賞して 樋口 元弥
篠川至賞特別功労部門を受賞して 吉原 正広
生涯教育新人賞を受賞して 渡辺 翔太
〔研修会参加報告〕
令和3年度第1回佐渡支部研修会に参加して 真壁 恵
上越支部春季研修会参加報告 柳原 優香
令和3年度第2回新潟支部研修会 藤井雄之介
令和3年度 新臨技臨床微生物部門研修会に参加して 石澤 美香
〔施設紹介〕 県立新発田病院 清水 留美
〔ペンリレー〕 齋藤 愛望
〔検査技師として～私の奮闘記～〕 竹田 洸、湯本 夏未、石田穂乃華、新発田美紀、久住 領、斎藤 優、大橋 歩実

〔訃報〕

〔会報〕
令和3年度 監査報告
令和4年度 一般社団法人新潟県臨床検査技師会 通常総会議事録
令和4年度通常総会からのアンケート
2021年度（令和3年度）Zoom による第7回理事会議事録
2022年度（令和4年度）Zoom による第1回理事会議事録
2022年度（令和4年度）Zoom による第2回理事会議事録
新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

325号 令和4年10月1日

〔講義〕

感染症治療に有効な抗菌薬の選択のために

ドライプレート‘栄研’（剤型名 DP1R）を用いた薬剤感受性試験について

藤崎 桃子

〔案内〕 第95回新潟県臨床検査学会

〔研究〕 第95回新潟県臨床検査学会抄録

〔施設紹介〕 新潟中央病院

皆藤 早苗

〔認定技師制度紹介〕 認定血液検査技師について

田中 利佳

〔ペンリレー〕

土門 美緒

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

河内 佳奈、白椿まどか、金子 采佳、大澤 和也、佐藤 晴香、関根 望、米山 知里
坂西 永子、宮川 茉莉

〔会報〕

2022年度（令和4年度）Zoomによる6月常任理事会議事録

2022年度（令和4年度）Zoomによる第3回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

326号 令和5年1月1日

〔あいさつ〕 年頭のご挨拶

渡邊 博昭

〔講義〕

LAL 試薬を用いた（1→3）-β-D-グルカンの測定

赤松 佑理

小腸・大腸の基礎知識から炎症性腸疾患と新規バイオマーカーまで

須長 宏行

〔公益事業参加報告〕

全国「検査と健康展」に参加して

土田 昌美

「糖尿病を知る集い2022」に参加して

大橋 孝宏

〔研修会参加報告〕

第1回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会に参加して

坂西 清

上越支部秋季研修会に参加して

小林亜矢音

第1回新潟支部研修会参加報告

鷺澤 徳子

中越支部フォーラムに参加して

三井田芽衣

超音波実技セミナーに参加して

加藤 義揮

令和4年度第1回佐渡支部研修会に参加して

市橋あゆみ

第2回下越支部研修会に参加して

中山紅美子

令和4年度輸血細胞治療部門研修会

小池 椎

〔施設紹介〕 医療法人メディカルビットパレー エールホームクリニック

金子 玲子

〔認定技師制度紹介〕 認定臨床微生物検査技師とは～自身の経験を交えて～

酒井 俊希

[ペンリレー]

高橋 恵美

[検査技師として～私の奮闘記～]

井上 夢乃、外山友莉乃、野田真紀子、宮平 来果、土門 美緒、齋藤 のあ

[会報]

2022年度（令和4年度）Zoomによる第4回理事会議事録

2022年度（令和4年度）Zoomによる10月常任理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

[行事予定]

[編集後記]

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事要旨、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。またメール文書配信システムを活用し迅速に各施設に届くように努めてきた。発行目安は理事会終了後の月1回とした。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。依然、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であったが、会員へ有益な情報を迅速に提供できるよう心がけた。また7月にスマホやタブレット端末に対応したページレイアウトへリニューアルを行い、求人情報も誤りがないよう求人先PDFを直接閲覧できるよう改良した。

【主要行動報告】

1. 4月10日 第1回理事会
2. 4月23日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
3. 5月13日 第1回表彰委員会
4. 5月14日 第2回理事会
5. 5月15日 篠川至賞選考委員会
6. 5月25日 第1回学術部会議
7. 5月29日 令和4年度通常総会
8. 6月18日 新潟県理学療法士会創立50周年記念式典へ渡邊会長出席
9. 6月19日 6月常任理事会
10. 6月25日 日臨技総会（東京）へ桑原副会長出席
11. 6月29日 第1回精度管理委員会開催
12. 7月15日 第1回臨床検査精度管理協議会へ佐藤事務局次長、伊藤理事出席
13. 7月16日 第3回理事会
14. 7月19日 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ小丸理事出席
15. 7月21日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
16. 8月21日 施設運営管理者協議会
17. 9月17日 第4回理事会
18. 9月25日 第1回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
19. 10月6日 第37回がん征圧新潟県大会田端副会長出席
20. 10月19日 日本臨床検査技師連盟第2回執行委員会田端副会長出席

21. 10月22日 10月常任理事会
22. 11月5日 第2回県学会WG開催
23. 11月11日 令和4年度北日本支部内連絡会議へ桑原副会長出席
24. 11月12日・13日 日臨技北日本支部学会10回(函館市)へ桑原副会長出席
25. 11月20日 検査と健康展開催
26. 11月20日 第2回タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
27. 11月21日 第14回新潟県救急搬送・受入協議会へ田中理事出席
28. 11月23日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
29. 11月26日 山形県臨床検査技師会創立70周年記念式典・祝賀会へ渡邊会長、桑原副会長出席
30. 12月4日 第5回理事会
31. 12月18日 第95回新潟県臨床検査学会
32. 1月21日 日臨技理事会へ桑原副会長出席
33. 1月27日 令和4年度第2回臨床医検査精度管理協議会開催
34. 1月28日 第6回理事会
35. 2月4日 日臨技北日本支部幹事会に桑原副会長出席
36. 2月26日 新潟支部総会へ田端副会長出席
37. 2月26日 第7回理事会
38. 3月4日 中越支部総会へ桑原副会長出席
39. 3月4日 上越支部総会へ渡邊会長出席
40. 3月18日 佐渡支部総会へ渡邊会長出席
41. 3月19日 第8回理事会

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。

令和4年度収支決算報告

貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,198,613	958,878	239,735
前払金	0	0	0
未収金	0	0	0
流動資産合計	1,198,613	958,878	239,735
2. 固定資産			
会館建設引当預金	15,000,000	14,768,000	232,000
共済基金	1,724,000	1,724,000	0
篠川至賞基金	10,304,286	11,105,286	△ 801,000
固定資産合計	27,028,286	27,597,286	△ 569,000
資産合計	28,226,899	28,556,164	△ 329,265
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	0	0
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III. 正味財産の部			
一般正味財産	28,226,899	28,556,164	△ 329,265
(うち特定資産への充当額)	(27,028,286)	(27,597,286)	(△ 569,000)
負債及び正味財産合計	28,226,899	28,556,164	△ 329,265

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	10,367,000	8,830,000	1,537,000
正会員受取会費	9,087,000	7,590,000	1,497,000
賛助会員受取会費	1,280,000	1,240,000	40,000
事業収益	1,371,000	1,566,000	△ 195,000
参加費収益	571,000	336,000	235,000
会誌広告収益	800,000	1,230,000	△ 430,000
受託事業収益	0	0	0
受取補助金等	1,679,550	1,280,450	399,100
受取民間助成金	1,679,550	1,280,450	399,100
雑収益	111,690	49,590	62,100
受取利息	20,020	19,590	430
協賛金収益	0	0	0
雑収益	91,670	30,000	61,670
経常収益計	13,529,240	11,726,040	1,803,200
(2) 経常費用			
事業費	9,255,801	9,046,343	209,458
学会費	1,408,257	1,645,412	△ 237,155
運営費	167,480	443,920	△ 276,440
学術部活動費	1,474,201	1,260,351	213,850
学術雑費	10,233	76,970	△ 66,737
臨床検査精度保証費	253,903	311,068	△ 57,165
会誌発行費	2,967,920	3,580,571	△ 612,651
広報編集費	677,274	823,820	△ 146,546
組織広報費	186,555	321,740	△ 135,185
災害対策費	0	3,000	△ 3,000
生涯教育表彰事業費	239,978	77,566	162,412
組織強化費	1,870,000	501,925	1,368,075
管理費	3,903,372	4,268,016	△ 364,644
備品費	0	294,504	△ 294,504
消耗品費	39,534	89,956	△ 50,422
印刷費	67,476	184,010	△ 116,534
通信費	244,762	455,754	△ 210,992
交通費	28,000	0	28,000
渉外対策費	50,130	146,400	△ 96,270
給料手当	1,235,150	602,000	633,150
会議旅費	746,480	866,960	△ 120,480

科 目	当年度	前年度	増減
事務所維持管理費	1,069,444	1,168,740	△ 99,296
電話費	81,199	82,252	△ 1,053
事務所雑費	0	4,037	△ 4,037
交際費	104,557	119,700	△ 15,143
総会費	229,416	253,703	△ 24,287
雑費	7,224	0	7,224
経常費用計	13,159,173	13,314,359	△ 155,186
評価損益等調整前当期経常増減額	370,067	△ 1,588,319	1,958,386
基本財産評価損益等			0
特定資産評価損益等			0
投資有価証券評価損益等			0
評価損益等計			0
当期経常増減額	370,067	△ 1,588,319	1,958,386
2. 経常外増減の部			0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額			0
当期一般正味財産増減額	370,067	△ 1,588,319	1,958,386
一般正味財産期首残高	28,556,164	30,144,483	△ 1,588,319
一般正味財産期末残高	28,926,231	28,556,164	370,067
II 指定正味財産増減の部			0
III 正味財産期末残高	28,926,231	28,556,164	370,067

財 産 目 録

令和 5 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	79,260
普通預金	
第四北越銀行臨港支店	1,062,367
ゆうちょ銀行	56,986
前払金	0
未収金	0
流動資産合計	1,198,613
2. 固定資産	
会館建設引当預金	
第四北越銀行臨港支店（定期 4 口）	10,000,000
ゆうちょ銀行（定額 4 口）	5,000,000
共済基金	
ゆうちょ銀行（定額 3 口）	1,724,000
篠川至賞基金	
第四北越銀行県庁支店（定期 3 口）	5,004,286
ゆうちょ銀行（定額 2 口）	5,300,000
固定資産合計	27,028,286
資産合計	28,226,899
II. 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	0
流動負債合計	0
2. 固定負債	0
固定負債合計	0
負債合計	0
正味財産合計	28,226,899

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	-	-	-	-
特定資産				
会館建設引当預金	14,768,000	232,000		15,000,000
共済基金	1,724,000			1,724,000
篠川至賞基金	11,105,286		801,000	10,304,286
小 計	27,597,286	232,000	801,000	27,028,286
合 計	27,597,286	232,000	801,000	27,028,286

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
小 計	-	-	(-)	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,000,000	-	(15,000,000)	-
共済基金	1,724,000	-	(1,724,000)	-
篠川至賞基金	10,304,286	-	(10,304,286)	-
小 計	27,028,286	-	(27,028,286)	(-)
合 計	27,028,286	-	(27,028,286)	(-)

4. 助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金						
受取検査学会研修助成金	日本臨床衛生検査技師会	0	1,479,550	1,479,550	0	
受取臨床検査精度保証助成金	新潟県医師会	0	200,000	200,000	0	
合 計		0	1,679,550	1,679,550	0	

計算書類に係わる附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」及び注記4「基本財産及び特定資産の財源等の内訳」に記載しているため省略する。

【上越支部】

〈支部研修会〉

1 秋季研修会：第119回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和4年9月3日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演 1

・睪臓MRI～MRIでわかること

富士フィルムヘルスケア株式会社 画像診断営業部 京谷 勉輔 先生

講演 2

・髄液計算版の細胞分類

胸水・腹水メイギムザ染色の細胞分類

諏訪中央病院 中央検査科 保科ひづる 先生

参加者は58名であった。（上越支部会員41名 他支部17名）

2 春季研修会：第120回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和5年3月4日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演・血液形態を学ぶ

群馬大学医学部付属病院 検査部 井上まどか 先生 シスメックス株式会社共催

参加者は55名であった。

〈令和4年度通常総会〉

令和5年3月4日（土）ZoomによるWeb開催にて、令和4年度活動報告および会計報告、令和5年度事業計画および予算の審議を行った。

〈研究班活動〉

1 検体研究班（臨床化学部門・微生物部門）

令和4・5年度班長：木島 貴志 技師

令和5年3月2日（木）にWebにて開催

「分析前工程の精度保証」について研修会を行った。

参加者は61名であった。

2 形態検査研究班（血液部門・血清部門・病理部門・一般部門）

令和4・5年度班長：市川由里恵 技師

令和5年3月4日（土）新潟労災病院にて、群馬大学医学部付属病院 検査部 井上まどか先生を講師

に迎え、シスメックス株式会社共催で「血液形態を学ぶ」の研修会を行った。

今年度は春季研修会と合同で開催した。

3 生理検査研究班（生理検査部門）

令和4・5年度班長：牛木加奈子 技師

令和4年9月3日（土）新潟労災病院にて、富士フィルムヘルスケア株式会社 京谷 勉輔先生を講師

に迎え、「睪臓MRI～MRIでわかること～」の研修会を行った。

今年度は秋季研修会と合同で開催し、参加者は58名であった。

〈地域保健活動〉

今年度は開催が無かった。

〈広報活動〉上越支部会員向け

今年度は第225号、第226号まで2回発行した。

〈支部会員会議〉

以下の日程にて、支部役員会議を開催した。

2022年（令和4年）

- 5月18日（水）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 6月22日（水）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 7月21日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 8月24日（水）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 10月19日（水）定例役員会（ZoomによるWeb開催）
- 11月24日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

2023年（令和5年）

- 2月28日（火）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

【中越支部】

〈学術〉

- 1) 令和3年度中越支部講演会 [生涯教育認定 専門20 参加者 34名]
日時：令和4年3月5日（土）14：00～15：00
開催形式：Zoomを用いたWeb開催
講演 『臨床検査と薬剤』
【講師】医療法人恒仁会 新潟南病院 渡部 学 先生
- 2) 令和4年度中越支部フォーラム [生涯教育認定 専門20 参加者 20名]
日時：令和4年8月20日（土）14：00～16：30
開催形式：Zoomを用いたWeb開催
講演1 『検査に潜むピットフォールをタイムコースから紐解く』
【講師】富士フィルム和光純薬株式会社 小田垣真一 先生
講演2 『臨床検査技師会の役割と活動について』
【講師】新潟県臨床検査技師会 桑原喜久男 副会長
- 3) 令和4年度中越支部ふれあい研修会 [生涯教育認定 専門20 参加者 22名]
日時：令和4年12月10日（土）開会14：00～17：00
開催形式：ZoomによるWeb開催
講演1 『C型肝炎検査の結果告知漏れ対策について』
【講師】芳賀赤十字病院 落合 剛史 技師
講演2 『C型肝炎の診断と治療』
【講師】長岡赤十字病院 消化器内科部長 吉川 成一 先生

〈学術支援事業〉

支援申請のあった1団体に対し、支部役員会議にて審議・承認の上支援を行った。

申請団体：中越支部心エコー研究会

研修会名：「令和4年度中越支部心エコー研究会」

日時：令和4年12月17日（土）14：00～16：30

会場：三条市商工会議所会館 4F 第2、第3研修室

募集人数：40名 参加費：無料

〈組織〉

- 1) 令和3年度中越支部通常総会 [生涯教育認定 基礎30 参加者 25名]
日時：令和4年3月5日(土) 15:00~16:00
開催形式：Zoomを用いたWeb開催

また組織活動として例年多くの公益事業に参加していたが、昨年度と同様に感染回避の行動方針に従い技師会として参加を辞退した。

〈広報〉

県技師会のホームページに支部開催研修会等の最新情報を掲載した。サイト上の支部ページも随時更新し、今年度は支部会誌「やまあい」第137号、138号、139号を発行した。

〈令和4年度会議録〉

- 第1回理事会 令和4年4月23日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：支部理事担当業務・県理事選出について
支部研修会開催について
今年度公益事業参加予定について
- 第2回理事会 令和4年5月28日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：支部研修会開催について
今年度公益事業参加予定について
- 第3回理事会 令和4年6月25日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：Web研修会、Web会議開催について
今後の支部理事会開催方法について
- 第4回理事会 令和4年7月29日(金) 【メール審議】
議題：Web研修会進捗について
今年度公益事業開催予定と参加可否について
- 第5回理事会 令和4年8月27日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：Web研修会進捗と企画・運営方針について
今年度公益事業への不参加決定と今後の方針について
- 第6回理事会 令和4年9月30日(金) 【メール審議】
議題：支部フォーラム開催報告と今後のWeb研修会について
自然災害による被害への対応について
- 第7回理事会 令和4年10月22日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：今後のWeb研修会の企画・運営について
支部講演会・総会開催について
- 第8回理事会 令和4年11月29日(火) 【メール審議】
議題：支部講演会・総会進捗について
来年度公益事業への参加について
- 第9回理事会 令和4年12月24日(土) 16:00~18:00 【Zoom会議】
議題：支部講演会・総会開催に向けた役割分担について
次年度支部研修会開催について
役員改選について

第10回理事会 令和5年1月28日(土) 16:00~18:00【Zoom会議】

議題：中越支部講演会・通常総会開催に向けた進捗について
次年度支部研修会開催について
役員改選について

第11回理事会 令和5年2月27日(月)【メール審議】

議題：中越支部講演会・通常総会について
次年度の支部活動について

第12回理事会 令和5年3月27日(月)【メール審議】

議題：中越支部講演会・通常総会報告について
次年度の支部活動について

【下越支部】

〈研修会等〉

(1) 第1回支部研修会 (Web開催)

日時：令和4年7月2日(土) 14:00~16:00

場所：各施設、自宅等

内容：「今さら聞けない検査の基本 2022」

① 救急検査部門

講師 新潟県立妙高病院 高橋 政江 技師

② 微生物検査部門

講師 新潟県立中央病院 山本 絢子 技師

③ 輸血細胞治療部門

講師 新潟勤労者医療協会下越病院 大倉 一晃 技師

参加者：72名(会員72名)

生涯教育認定 専門 20点

(2) 第2回支部研修会 (Web開催)

日時：令和4年9月3日(土) 14:00~16:00

場所：各施設、自宅等

内容：「今さら聞けない検査の基本 2022 part 2」

① 一般検査部門 「髄液検査について」

講師 長岡赤十字病院 松雪 咲身 技師

② 生理検査部門 「心電図について」

講師 新潟大学医歯学総合病院 松浦 芳 技師

③ 生化学検査部門 「異常値の考え方」

講師 新潟県立新発田病院 小野間健介 技師

参加者：51名(会員51名)

生涯教育認定 専門 20点

(3) 第3回支部研修会 (Web開催)

日時：令和5年2月25日(土) 14:00~15:00

場所：各施設、自宅等

内容：「Good Laboratory Pipetting (GLP) セミナー

(ピペットの基礎から、正しい使用方法、メンテナンス、校正、精度管理など)」

講師 サーマフィッシャーサイエンティフィック株式会社
ラボプロダクツ事業部 佐坂 真一 先生

参加者：45名（会員39名、学生6名）

(4) 下越支部総会（議決権行使書）

日時：令和5年2月25日（土）15：30～16：00

場所：（一財）下越総合健康開発センター 2階 大講堂

〈下越支部理事会〉

第1回：4月20日（Web会議）

第2回：5月17日（Web会議）

第3回：6月21日（Web会議）

第4回：7月2日（下越総合健康開発センター 2階 大講堂）

第5回：9月3日（下越総合健康開発センター 2階 大講堂）

第6回：10月18日（Web会議）

第7回：11月15日（Web会議）

第8回：12月20日（Web会議）

第9回：1月17日（Web会議）

第10回：2月25日（下越総合健康開発センター 2階 大講堂）

〈ホームページ〉

下越支部ホームページについては研修会の案内、参加報告など更新した。

【佐渡支部】

〈研修会等〉

1) 第1回支部研修会

日時：令和4年8月20日（土）13：30～15：40

会場：ZoomによるWeb研修

内容：① 精度管理の基礎

シスメックス株式会社 中島 正雄 先生

② フィルムアレイを用いた感染症パネル検査による網羅的解析の実現

ビオメリュー・ジャパン株式会社 北浦 芳之 先生

生涯教育ポイント：専門20点 会員参加 27名

2) 第2回支部研修会

日時：令和5年2月11日（土）13：30～15：40

会場：ZoomによるWeb研修

内容：① 尿沈渣成分の鑑別について

アークレイマーケティング株式会社 柴崎 涼 先生

② 血液ガスの基礎と応用

ラジオメーター株式会社 鈴木 肇 先生

生涯教育ポイント：専門20点 会員参加 54名

3) 第3回支部研修会

日時：令和5年3月18日（土）13：30～15：40

会場：佐渡総合病院2階講堂およびZoomによるWeb研修

内容：① 睡眠習慣を整えキラキラ輝く私に（会場開催オンライン併用）

東洋羽毛北信越販売株式会社 伊東 和博 先生

② マイクロピペットの正しい使い方（Web研修）

エッペンドルフ株式会社 原尻 聡子 先生

生涯教育ポイント：専門20点 会員参加 34名

4) 支部総会

日時：令和5年3月18日（土）15：50～16：20

会場：佐渡総合病院2階講堂およびZoomによるWeb開催

内容：令和4年度 佐渡支部総会

生涯教育ポイント：基礎30 会員参加 28名

〈公益事業〉

COVID-19の影響により、例年行われている島内の公益事業は中止。

〈支部役員会〉

第1回理事会 令和4年8月3日（水）（Web開催）

議題：支部研修会の開催について

第2回理事会 令和5年2月16日（木）（Web開催）

議題：支部研修会・総会の開催について

【新潟支部】

【令和3年度第2回新潟支部研修会（Web開催）】2022/2/23

参加人数：30名

聴覚障害者のコミュニケーション方法について 坂井 隆行（新潟県聴覚障害者情報センター）

【令和4年度第1回新潟支部研修会（Web開催）】2022/9/4

参加人数：36名

認知症について 成瀬 聡（総合リハビリテーションセンター・みどり病院 認知症疾患センター）

（臨床化学検査研究班）

なし

（血液検査研究班）

なし

（生理検査研究班）

【令和4年度 新潟支部生理研究班研修会（Web開催）】2023/1/15

参加人数：59名

ISO-15189の生理学的検査認定について 岡田 顕也（群馬大学医学部附属病院）

山崎 正之（大阪府済生会中津病院）

（一般検査研究班）

【第50回新潟支部一般検査研修会（現地開催）】（複数開催）

第1回2022/7/24 参加人数：12名

第2回2022/8/21 参加人数：15名

第3回2022/8/28 参加人数：16名

初級者と当直で不安なく尿沈渣を見る

- ①標本作製と顕微鏡の使い方
- ②非上皮系細胞について
- ③上皮細胞について①
- ④上皮細胞について②
- ⑤円柱・結晶について
- ⑥その他の成分、尿沈渣検査のコツ

白川千恵子（新潟医療技術専門学校）

小野 篤史（済生会新潟病院）

伊藤千香子（済生会新潟病院）

高橋 佳乃（新潟南病院）

深谷 響己（新潟大学医歯学総合病院）

齋藤 直子（新潟聖籠病院）

齋藤 清美（新潟県労働衛生医学協会）

【第51回新潟支部一般研究班研修会（現地開催）】 2022/12/11

参加人数：11名

- ①改めて学ぶ 糖尿病と尿検査
- ②大腸がんと便潜血

柴崎 涼（アークレイマーケティング株式会社）

（病理検査研究班）

【第43回 新潟病理技術研究会（Web開催）】（新臨技病理細胞部門共催） 2022/12/10

参加人数：39名

- ①あなたの施設の「HE染色管理」見せてください

機器の管理、染色液の管理、HE染色標本の評価基準、HE染色評価等

- ②識別しやすいHE染色標本作製 末吉 徳芳（サクラファイナテックジャパン株式会社）
- ③日臨技におけるタスク・シフト／シェア推進へのこれまでの対応と今後の展望

丸田 秀夫（日本臨床衛生検査技師会）

滝野 寿（日本臨床衛生検査技師会）

（細菌検査研究班）

【第132回新潟支部微生物研究会（Web開催）】 2022/11/11

参加人数：29名

LAMP法を含むSARS-Cov-2遺伝子検査について～基礎から最新情報まで～

坂元 琴子（栄研化学株式会社）

（公益活動、その他）

【令和3年度一般社団法人新潟県臨床検査技師会新潟支部定期総会】 2022/2/23

参加人数：26名

総会及び幹事会

- 1) 支部定期総会

令和4年2月23日（水）新潟県臨床検査技師会事務所 + ZoomによるWeb開催

- 2) 第1回 新潟支部幹事会

- 令和4年3月16日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 3) 第2回 新潟支部幹事会
令和4年4月27日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 4) 第3回 新潟支部幹事会
令和4年5月18日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 5) 第4回 新潟支部幹事会
令和4年6月22日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 6) 第5回 新潟支部幹事会
令和4年8月24日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 7) 第6回 新潟支部幹事会
令和4年9月21日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 8) 第7回 新潟支部幹事会
令和4年10月26日(水)19:00～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催
- 9) 第8回 新潟支部幹事会
令和4年12月21日(水)19:00～ZoomによるWeb開催
- 10) 第9回 新潟支部幹事会
令和5年2月1日(水)19:05～新潟県臨床検査技師会事務所+ZoomによるWeb開催

第3号議案

令和4年度監査報告について

第4号議案

支部提出議案について

第5号議案

日臨技定時総会提出議案について

第6号議案

次年度役員選出について

令和5年度事業計画

会長

渡邊 博昭

令和5年度は役員改選期であるが、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、コロナ禍以前の生活様式に対応した技師会活動を再開しながら進め、とどこおりなく会務を遂行する。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き規定および手順書の検証をする。
- ② リモートを併用しながら会議および研修会等のリアル開催を再開する。
- ③ 災害対策

学術部

- ① 第96回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② ニュージーリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ③ 検査研究部門活動の助成金申請制度を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 通常総会の開催

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類指定感染症へと見直されるが、引き続き新型コロナウイルス感染の動向を見極めながら実施していく。また、通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着していたが、新型コロナウイルス感染の動向を見極めながら開催を検討する。

2. 会務の執行体制

令和5年度においては円滑な業務運営を進めるためにも、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。また、活動の要である事務局機能は各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

3. 諸会議の開催

1) 理事会・常任理事会

新型コロナウイルス感染対策を図りつつ連携を密にするために、会議方法はZoomによるWEB開催を実施していき、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

4. 組織対策

1) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りつつ、学術部と支部との連携を強化するとともに、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 会員施設との連携強化

施設運営管理者協議会を1年に1回開催していき、新臨技・日臨技の事業説明等の理解を図りながら各施設の意見を吸い上げ、新臨技活動につなげたい。次年度以降も多くの施設運営管理者からの出席を図れるよう、努めたい。また、本協議会の運営を強化するためにも施設運営管理者協議会の広報を進め、各施設からの登録をお願いしていく。

5. 地域保健医療活動および公益事業

令和5年度は新型コロナウイルス感染拡大が想定されるため、各団体の動向を見極めながらとなるが、一般社団法人として県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指していく。臨床検査技師として、社会貢献の取り組み、全国 検査と健康展など日臨技事業の開催、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していけるよう努める。

6. 求人情報

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

7. 災害関係

災害時の支援活動に威力を発揮するためにも、災害支援マニュアル整備に努める。

8. 表彰関係

1) 第41回篠川至賞

令和5年度で第41回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中から篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 令和5年度功労者表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

3) 名誉会員

新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

4) 令和4年度生涯教育履修表彰

奨励賞では多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。また、生涯教育新人賞では臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

5) 学会表彰

新潟県臨床検査学会で優秀な演題発表をした者を表彰する。

6) その他

各団体の表彰の基準に該当する者については積極的に推薦をしていく。

学術部

副会長 桑原喜久男

令和5年度も検査研究部門活動、新潟県臨床検査学会、生涯教育活動を中心として活動を進める。第96回新潟県臨床検査学会を令和5年12月10日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。現地開催を基本として、機器展示、ランチョンセミナーを含めて準備を進めていく。検査研究部門はWebでの研修会が主となっているが、現地開催を含め開催方法を検討する。検査ニーズや臨床検査技師を取り巻く社会情勢に対応できる知識、スキルを学ぶ機会を設け、会員同士がふれあい、会員同士の輪を広げられる研修会を企画、運営していく。生涯教育事業においては日臨技の生涯教育推進事業の20研修会を到達できるよう検査研究部門長や支部長と連携を図りながら業務を進める。

1. 学会

桑原喜久男

第96回新潟県臨床検査学会を令和5年12月10日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。一般演題、教育講演、特別企画の開催予定しており、コロナ禍以前のランチョンセミナー、機器展示を行い賛助会員も含め、多くの会員が集まれる学会を目指す。

2. 検査研究部門

中村 岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術が、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し実践していくことが極めて重要である。そのため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門（管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野）の9部門6分野で構成され、各部

門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。

研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とする。

研修会開催は、オンライン研修会と並行し新型コロナウイルス感染対策を十分に実施した上で、現地開催や実技研修の開催について前向きに検討する。オンライン研修会により、会員は比較的参加しやすい環境となっており、会員のニーズが反映された開催形式を考慮し企画運営していく。各部門においては複数回の研修会を開催できることを目指したい。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性を高める内容など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整え、企画運営にあたる。特に、技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や他団体との共催による研修会を企画することを奨励する。

ポストコロナにおける研修会開催形式について考慮し、幅広い知識や技術を習得できるよう会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

田端 篤

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

2023年度も臨床化学、微生物、血球計算、血液フォトサーベイ、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。また臨床検査室の品質保証施設認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。本年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行を考慮し、現地開催やWeb研修会など社会状況に応じた研修会を実施し生涯教育の登録を進めていく。加えてボランティア活動など啓発運動も再開となれば併せて登録を進めていく。日臨技情報総合システム（JAMTIS）の運用および「生涯教育推進研修会助成金」の申請と助成金受領の支援を引き続き図っていく。

広報部

副会長 田端 篤

2023年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては学術的な内容を基本とする中で、様々な企画を取り入れながら会員に有益な情報を提供できる会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は327号から330号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き基礎から専門分野まで幅広く焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕 少しずつ形式を変え開催する公益活動もでてきたが、安全に開催できるようになった時には是非以前のように積極的に参加し、会員には公益活動の大切さを知りボランティア活動にも参加していただくよう働きかける頁としたい。

〔認定検査技師制度〕 認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載し、各種認定取得を目指している多くの会員を支援したい。

〔施設紹介〕 臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域の施設を紹介していきたい。

〔学会参加報告〕 学会で発表することの意義や、当日までのプロセスなどを掲載し、これから発表を考えている人たちの参考となるような頁にしたい。

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事録、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるようなレイアウトを心がけたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えている。今年度も臨床検査を取り巻く環境変化について、会員に有益な情報をタイムリーに更新していきたい。また、メール文書配信システムや施設運営管理者協議会連絡用メールアドレスの登録フォームも引き続き運用していく。

令和5年度収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	前年予算額	増減	摘要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	10,250,000	10,120,000	130,000	
正会員受取会費	8,970,000	8,840,000	130,000	1380名×6,500
賛助会員受取会費	1,280,000	1,280,000	0	64社
事業収益	2,200,000	2,200,000	0	
参加費収益	600,000	600,000	0	学会費300名×2,000
会誌広告収益	600,000	600,000	0	会誌広告
受託事業収益	1,000,000	1,000,000	0	新潟県
受取補助金等	1,200,000	1,200,000	0	
受取民間助成金	1,200,000	1,200,000	0	日臨技、医師会
雑収益	205,000	205,000	0	
受取利息	5,000	5,000	0	
協賛金収益	100,000	100,000	0	学会展示
雑収益	100,000	100,000	0	祝儀等
経常収益計	13,855,000	13,725,000	130,000	
(2) 経常費用				
事業費	12,730,000	12,730,000	0	
学会費	1,500,000	1,500,000	0	第96回新潟県学会
運営費	1,500,000	1,500,000	0	臨床検査セミナー、技師長会議、新型コロナ研修
学術部活動費	2,500,000	2,500,000	0	研究部門活動費
学術雑費	120,000	120,000	0	源泉徴収税等
臨床検査精度保証費	450,000	450,000	0	新潟県精度管理事業
会誌発行費	2,600,000	2,600,000	0	会誌4号
広報編集費	800,000	800,000	0	広報委員会、HP維持管理費
組織広報費	900,000	900,000	0	各支部公益事業負担
災害対策費	200,000	200,000	0	
生涯教育表彰事業費	200,000	200,000	0	賞状作成費等
組織強化費	1,960,000	1,960,000	0	各支部助成金、支部費
管理費	6,080,000	5,280,000	800,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
印刷費	300,000	300,000	0	各種案内
通信費	500,000	500,000	0	案内発送
交通費	300,000	100,000	200,000	日臨技、北日本会議
渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
給料手当	1,250,000	650,000	600,000	事務職員
会議旅費	800,000	800,000	0	理事会旅費

科 目	予算額	前年予算額	増減	摘要
事務所維持管理費	1,750,000	1,750,000	0	賃貸料、電気代
電話費	120,000	120,000	0	
事務所雑費	30,000	30,000	0	
交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
総会費	250,000	250,000	0	議決権行使書送料
雑費	30,000	30,000	0	
経常費用計	18,810,000	18,010,000	800,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,955,000	△ 4,285,000	△ 670,000	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計	0	0		
当期経常増減額	△ 4,955,000	△ 4,285,000	△ 670,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0		
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 4,955,000	△ 4,285,000	△ 670,000	
一般正味財産期首残高	24,271,164	25,459,483	△ 1,188,319	
一般正味財産期末残高	19,316,164	21,174,483	△ 1,858,319	
II 指定正味財産増減の部				
III 正味財産期末残高	19,316,164	21,174,483	△ 1,858,319	

注1：短期借入金限度額1,000,000円

注2：債務負担額はない